

目次

- 刊行の言葉 ……P2
- 監修者より ……P3
- 調査概要 ……P4
- グラフの読み方・
データご利用の際のお願い ……P5
- 回答者・回答園の属性 ……P6-8
- 第1章 園の基本情報 ……P9-29
 - 第1節 園の体制 ……P11
 - 第2節 教員 ……P19
 - 第3節 その他 ……P27
- 第2章 教育的な活動 ……P31-57
 - 第1節 教育計画 ……P33
 - 第2節 教育環境・設備 ……P36
 - 第3節 教育活動の時間 ……P38
 - 第4節 教育課程内の活動 ……P41
 - 第5節 教育課程外の活動 ……P47
 - 第6節 保護者との関係、保護者による活動…P50
 - 第7節 その他 ……P55
- 第3章 子育て支援活動 ……P59-75
 - 第1節 未就園児の親子登園 ……P61
 - 第2節 様々な子育て支援活動 ……P67
 - 第3節 預かり保育 ……P71
- 第4章 よりよい幼児教育推進のために ……P77-88
 - 第1節 園の教育上・経営上の課題 ……P78
 - 第2節 よりよい幼児教育推進のために ……P85

刊行の言葉

近年、日本の社会では、少子高齢化、核家族化のさらなる進行、女性の社会進出、経済のグローバル化、ITによる情報化など社会環境の変化が加速し、家族のあり方や親子関係を含めた子どもの成育環境に大きな変化が起こっています。このような変化をとらえるため、学術的な調査・研究を行い、その成果を事業・社会に還元することを目指して、2006年1月にベネッセ次世代育成研究所を設立いたしました。

このたびご報告いたします「第1回 幼児教育・保育についての基本調査（幼稚園編）」は現在の幼稚園の実態、なかでもとりわけ「子育て支援活動」を明らかにすることを目的に実施しました。ベネッセの調査研究部門では、保護者を対象とした経年調査を過去に何回か実施しておりますが、幼児教育にあたられている先生方を対象とした調査は今回が初めてです。幼稚園の子育て支援活動への期待が大きくなるなか、幼稚園と保護者との連携がますます重要になるという課題意識のもと、この調査を企画いたしました。

調査は2007年6月に実施し、全国1,604園の先生方から貴重なご回答をお寄せいただきました。調査にご協力いただいた先生方に於かれましては、日々の教育活動にお忙しいなか、多岐にわたる質問にお答えいただき誠に有難うございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

調査実施にあたっては、白梅学園大学・無藤隆先生に監修をお願いし、調査・分析の全体についてご指導いただきました。また、品川区立二葉すこやか園長・大竹節子先生、私立愛育幼稚園長・酒井幸子先生、江戸川区立船堀幼稚園長・福井直美先生、私立初音丘幼稚園長・渡邊眞一先生、元全国国公立幼稚園長会会長でありベネッセ次世代育成研究所顧問でもある磯部頼子先生からなる検討委員会を設け、調査票作成・分析について、細かなご指導をいただきました。先生方に多大なるお力添えをいただいたことに感謝申し上げます。

この調査は、国公立幼稚園と私立幼稚園の双方に同じ調査票で実施した、他に例のない調査となっています。また、今後は今回の調査を起点に、経年で幼稚園の変化を追っていきけるように設計しています。この速報データ集からは、ここ数年の幼児教育の変化を受け、大きく様変わりしようとしている幼稚園の一端を垣間見ることができます。現在の幼稚園と幼児教育を知るための資料として、この調査を幅広くご活用いただければ幸いです。また、日本の幼児教育の質を高めることに、微力ではありますが、お役に立てばと願っております。

2007年12月1日
ベネッセ次世代育成研究所

監修者より

■本調査の意義

無藤 隆（白梅学園大学）

本調査は日本で初めて、全国の幼稚園について、その実態を代表的な標本調査により明らかにするものです。今後数年おきに調査する予定であり、特に第1回として、基本的な属性や特徴を記述し、今後の調査のための基本枠組みとすることを念頭に置いて、調査を設計してあります。幼稚園は公立と私立でかなり実態が異なることが予想されるので、分析には、国公立と私立という運営主体の違いにより比較し検討しました。こういった規模の本格的な調査は今まで文部科学省も立ち上げた形では行っておらず（学校基本調査はもっと基本に関わるものに限定されている）、教育委員会や大学等で行われるものは規模が小さい上に、地域的に偏っていることが多いので、日本全体の状況が分かりませんでした。さらに、今後の年代による変化の検証により、日本の幼稚園がどこに行こうとしているか浮かび上がることとなります。

そういった年代による比較はまだ出来ないわけですが、しかし、全国的にどういった状況にあるのか、いくつかの数字を見るだけでも、今の幼稚園のあり方を垣間見ることが出来ます。例えば、認定こども園の設置を検討している私立幼稚園が2割ほどある。2歳児の入園を受け入れている私立幼稚園が4分の1ある。特別支援児は私立の5割、国公立の6割5分にいる。私立で教職員が5年未満の人が5割になる。園内研修の予算をゼロとしているところは私立で5割、国公立で6割で、なかなか講師を呼べない状況にある。何らかの給食を私立の8割、国公立の4割が実施している。園の教育課程を編成していない私立が1割弱ある。指導要録・抄本を小学校へ送付していない私立が3割、国公立でも1割ほどある。私立で保育の中に少しでも英語活動を入れているところは5割近くに及ぶ。ひらがな（書き）のワークブックも5割近く（残りの園はやっていないことになる）になる。私立の預かり保育が毎日18時台になるところが全体の2割を超える。小学校との交流活動は国公立は8割以上だが、私立も6割になる。

こういった結果は様々に解釈が可能ですが、幼稚園の仕組みを念頭に置くと、かなり驚くことも入っています。また今後の対応が求められることもあるに違いありません。是非各々の立場から数字を読み取り、施策や教育活動の作成の参考にして頂ければと思います。

調査概要

➤調査テーマ

国公立・私立幼稚園の教育活動、子育て支援活動等に関する意識・実態調査

➤調査方法

郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

➤調査時期

2007年6月

➤調査対象

* 全国の園児数30人以上（一部、園児数不明の園も含む）の国公立私立幼稚園の園長・副園長（教頭）・主任の先生（1園につき1名が回答）

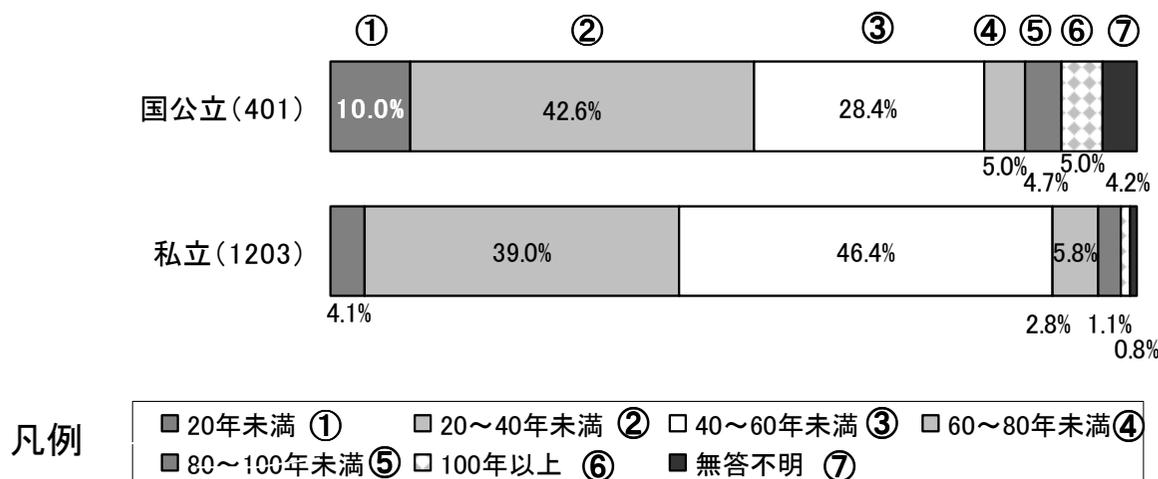
* 発送数、回収数（有効回答数）、回収率は下表の通り

	合計	国公立	私立
発送数	7,100	1,420	5,680
回収数(有効回答数)	1,604	401	1,203
回収率	22.6%	28.2%	21.2%

グラフの読み方・データご利用の際のお願い

◎ご紹介しているデータ・グラフについて

- * ページタイトルに【国公立】【私立】とある場合、そのページのグラフや表は、各種別のみを分析した数値を表します。
- * グラフタイトルに「(〇〇の園のみ)」などと書かれている場合、そのグラフは()に該当する園を母数として算出した数値です。(国公立、私立のサンプル全数を母体としていません)
- * 本資料に掲載している設問や選択肢は、文意を損ねない程度に、一部編集しています。
- * 以下のようなグラフの場合、凡例の①～⑦で示す順に棒グラフの左から数値を載せています。



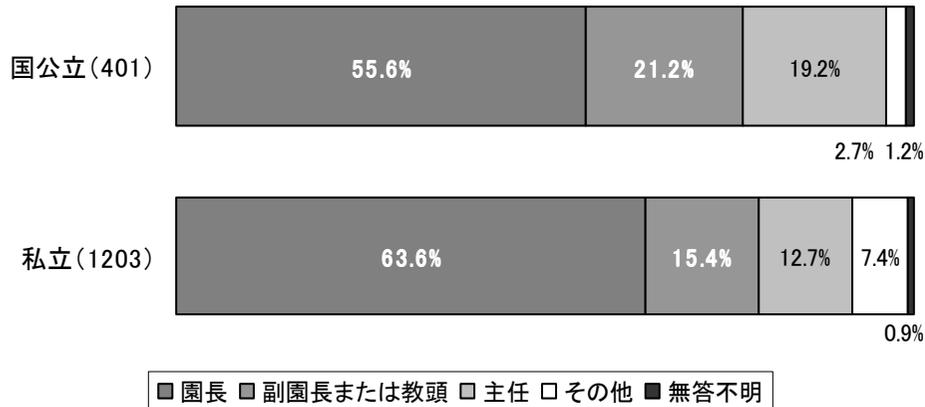
◎データをご利用の際のお願い

ここでご紹介する数値を資料等に掲載していただく場合は、ベネッセ次世代育成研究所までご連絡ください。「ベネッセ次世代育成研究所」のHP内“よくあるお問い合わせ”のコーナーに掲載申請書がございますので、FAXか郵送でお送りください。ご不明な場合は、TEL03-3295-0294（受付時間/10:00-17:00 ※12:00-13:00・土日・祝日・年末年始を除く）までご連絡ください。本調査の結果をさまざまな場面でご活用いただければ幸いです。

回答者の属性

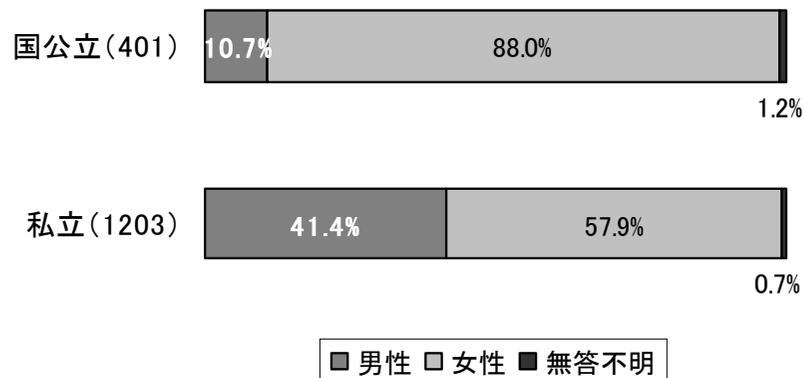
■ 役職

現在のあなたの役職について、あてはまる番号1つに○をつけてください。



■ 性別

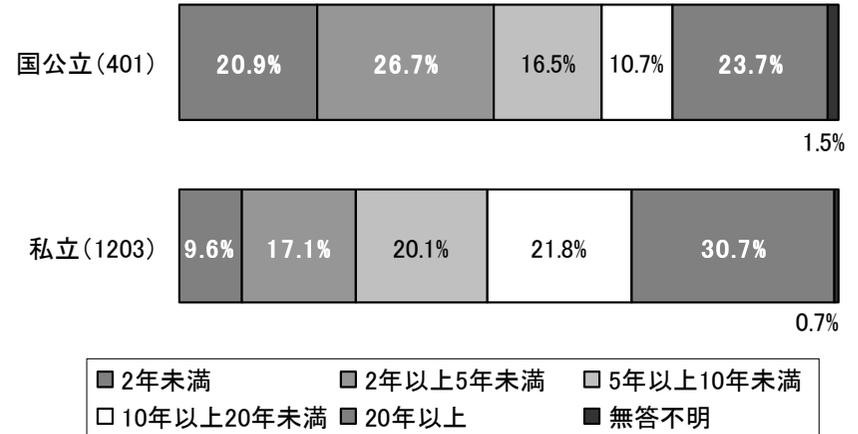
あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。



■ 役職の経験年数

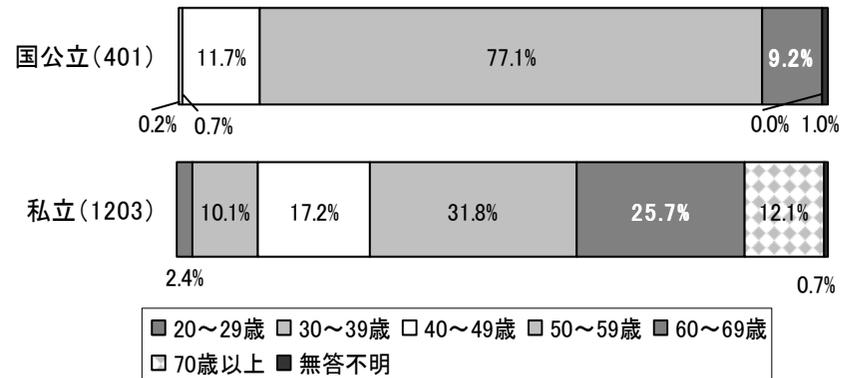
※以下すべて、()内はサンプル数

役職の経験年数について、あてはまる番号1つに○をつけてください。



■ 年齢

現在のあなたの年齢について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

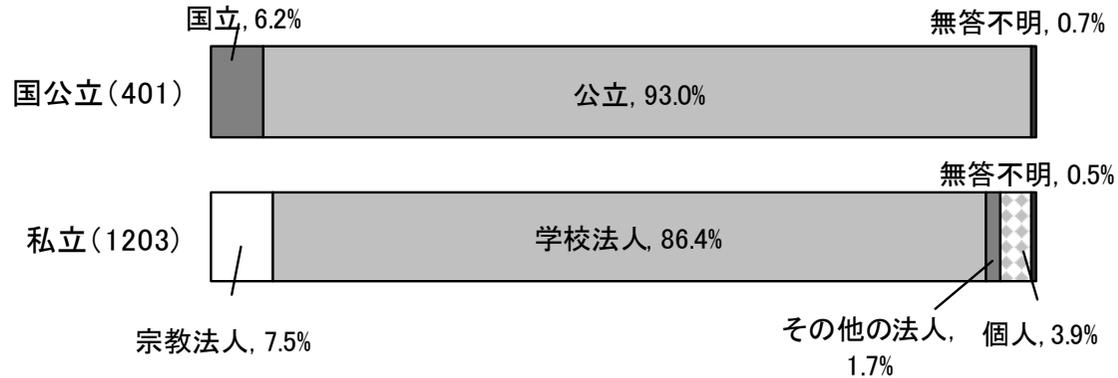


回答園の属性

■園の設置形態

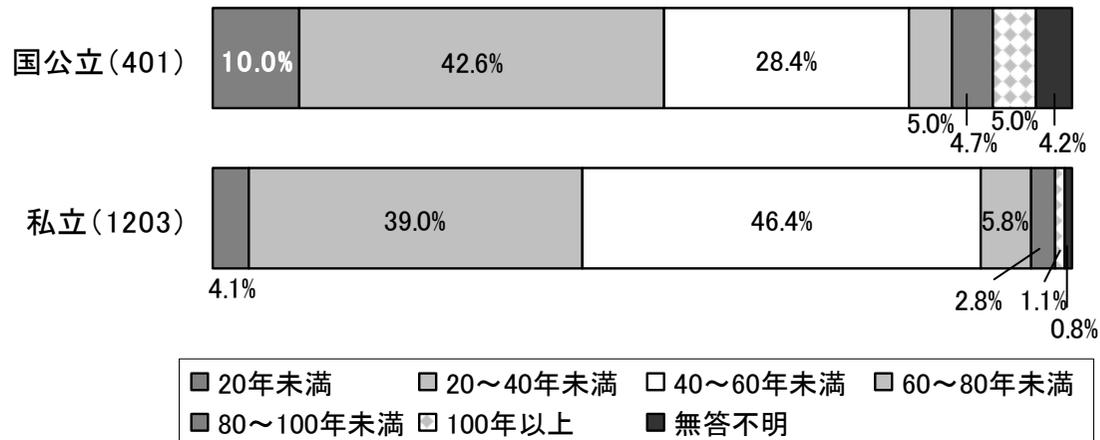
貴園の設置形態について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

※「無答不明」の園は、園名を元に種別を調べて分類し、分析に利用した



■開園からの年数

貴園が認可幼稚園として開園してから現在に至るまでの年数について、あてはまる番号1つに○をつけてください。



■園児数

平成19年6月1日現在の園児数と学級数、担任数について、次の()内に数字を記入してください。

※無答不明を除く
※記入された園児数をもとに分類した

